

平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	帯広畜産大学	整理番号	e002
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	食の安全に関わる高度専門家育成プログラム		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) (畜産学・獣医学、農学、環境農学)		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (畜産衛生学、応用獣医学、臨床獣医学、応用動物科学、農業経済学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名)	研究科長(取組代表者)の氏名 鈴木 直義	
	畜産学研究科・畜産衛生学専攻[博士前期課程]		
	畜産学研究科・畜産衛生学専攻[博士後期課程]		
(その他関連する研究科・専攻名)			
<p>5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)</p> <p>5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)</p> <p>帯広畜産大学では、教育研究の理念である「動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保」への社会貢献を強力に具体化するために、上記標題で採択された「21世紀COE(生命科学)」を基盤にした「食の安全確保」に係る基礎応用研究を推進している。平成16年4月、21世紀COEを推進する教員を中心に修士課程畜産衛生学独立専攻を設置して「食の安全」に関わる高度な人材育成を目的とした実学に根ざした教育基盤を整備した。本専攻は、獣医系と畜産系教員の融合組織を中核に、原虫病研究センター(全共)、大動物特殊疾病研究センター(学共)及び国内外からの実務指導者の参画で、これまで獣医系と畜産系の解離のために達成できなかった「食の安全確保」に関わる高度な教育研究体制を相互補完によってわが国で初めて構築し、この春には「畜産衛生学修士」を輩出する。平成18年度4月からの博士後期課程の設置は<u>本学</u>の中期目標の最重点項目であり、後期課程3カ年の完成に向けて本学の総力を結集した教育研究体制の整備を進める。本プログラムでは、「食の安全」に関わる豊富な知識と高度な技術に裏づけされた人材の育成を主眼においた教育拠点機能の確立を目指し、前期課程における「獣医・畜産系の共通化したカリキュラムによる実践教育の充実」と、後期課程における「食の安全確保に関わる国際的活動を視野に入れた研究活動」の教育研究体制を確立する。</p>			

機 関 名	帯広畜産大学	整理番号	e002
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>BSEや大規模食中毒の発生、食肉産地偽装事件以来、「食の安全と安心」に関する消費者の関心は高く、動物由来食品(家畜及び乳・肉加工食品)の安全性確保がわが国の緊急課題の一つとなっている。本学では、</p> <p>「21世紀COEプログラム」を中心とした「畜産衛生学分野」における世界水準の研究組織を基盤として、「食の安全確保」のための高度専門職業人養成に特化した実践的教育研究を行う目的で、平成16年度に畜産衛生学独立専攻を設置して環境整備を進めている。本専攻における教育活動の特徴は、<u>完全な大学院教育の実質化を果たすために</u>、①専門分野に偏らない共通の講義と実習が一体化した「総合型授業」を構築し、②動物由来食品の生産から消費までに関わる諸問題を広く考察できる教育体系を進展させ、③従来の研究重視型の修士論文作成を廃止し、実社会を見据えた「食の安全」に関わる課題について探求を行い公表し、最終的に④関連分野の基礎と応用を横断的に学んだ人材育成をめざすことである。今後の中心的課題は、国際的視野に立って「食の安全確保」の視点から安全・安心な社会の構築・運営・評価に貢献できる人材を育成するための組織的展開である。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>農畜産物の安全性に関わる実践的な高度専門家育成を目的として、前期課程は獣医・畜産系の共通化したカリキュラムによる畜産衛生関連分野の基礎知識や技術の習得に重点をおき、後期課程は、前期課程で実践した調査・研究を基盤にした専門的な問題解決型の国際的活動能力の養成に重点をおいた一貫教育プログラム体制を完成させる。そのために、<u>獣医学と畜産学の分野横断的なカリキュラム</u>を編成し、英語による討論、自らの研究テーマに則した海外インターンシップ演習、畜産衛生分野の第一線で活躍する専門家による実践的教育、など多様な教育体制を導入する。</p> <p>① 国内外のインターンシップ演習を実施する。欧米先進国及びアジア地域開発途上国と本専攻の国際共同研究を通じた研究教育現場あるいは畜産生産現場における実情を体験することにより、グローバル化する畜産衛生学分野の理解を深め、実践的な研究開発能力の養成と国際性の修得をはかる。</p> <p>② 乳肉牛を中心とした「農場から食卓まで」の多元的な実践教育、すなわち家畜の健康医科学と原虫病等の感染症学からなる家畜生産衛生、食肉乳を中心にした食品有害微生物学と食品衛生技術、一連のリスクを疫学と経済的な視点で理解する衛生経済学、そして家畜生産と食品加工が生む環境への負荷軽減と循環型技術を開発する環境衛生について、2ヶ月ずつ進行する4セメスター制による集中的な講義・演習を行う。</p> <p>③ 1年に2回開催する「畜産衛生に関する帯広ワークショップ」を教員と共同で企画運営し、国内外における実践的研究成果を、関係する分野の社会人を対象に公表し議論することで、研究の深化だけにとどまらず、討論技術や社会性、倫理観を涵養し、当該研究の社会的位置付けを意識させる。</p>			

6. 履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

大学院博士課程畜産衛生学専攻

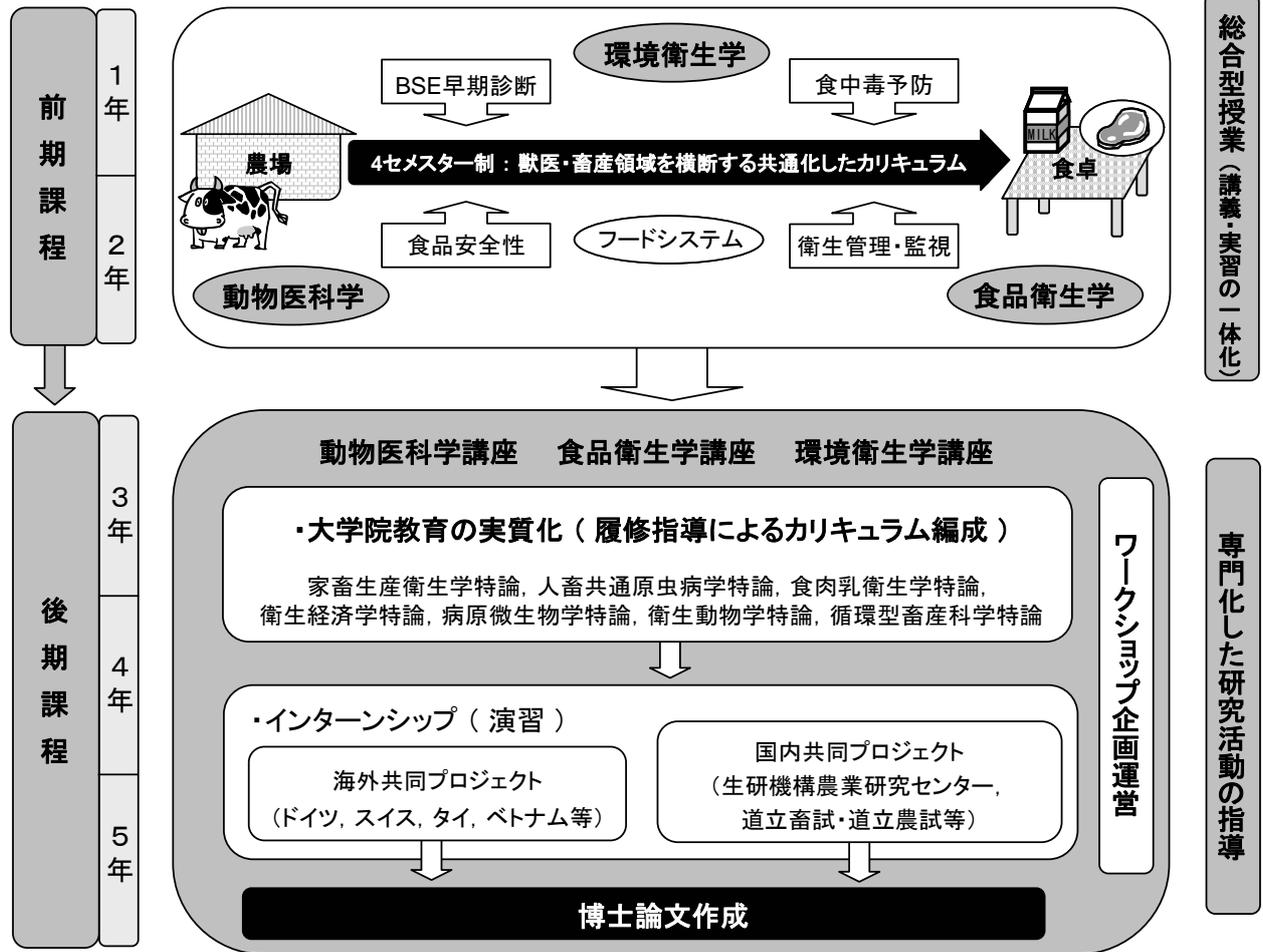
原虫病研究
センター(全共)

基幹講座
(動物医科学, 食品衛生学, 環境衛生学)

大動物特殊疾病
研究センター(学共)

動物性由来食品の衛生に関わる高度専門学術の提供

獣医学系と畜産学系教員の共同研究組織 による, 現場を理解し, 管理・改善することのできる人材育成



先進国(高度モデル)と発展途上国(問題解決型モデル)との連携

★帯広畜産大学の海外研究拠点

・ベルン大学(スイス)

・ミュンヘン大学(ドイツ)

・帯広畜産大学(日本)

・フエ大学(ベトナム)

・デラサール大学(フィリピン)

・マヒドン大学(タイ)

21世紀COEプログラム

新興・再興感染症拠点形成プログラム

国際的研究活動への参画による国際性に長けた人材育成

機 関 名

帯広畜産大学

整理番号

e002

<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための方策ならびに教育プログラムは、ともに本事業の趣旨に沿ったものであり、一定の成果が期待される。また、獣医畜産に特化した単科大学であって、十分実現性が期待されると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

・国際的にも社会的にも関心の高い「食の安全」に焦点を当てた取組であり、また、従来の研究、基礎教育に重点を置いた大学院とは異なり、実習とフィールドワークを重視したカリキュラムに新鮮さが見られる。また、同一大学内での2分野[畜産科学と獣医学]の連携・融合した教育分野の創設を目指した教育プログラムであり、学長のリーダーシップの下、明確な戦略も見られ、今後の成果が期待できる。